

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム明香苑		
所在地	周南市代々木通り2 - 27		
電話番号	0834-21-8188	事業所番号	3570500458
法人名	医療法人こうえい会		

訪問調査日	平成 20 年 6 月 16 日	評価確定日	平成 20 年 10 月 4 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	8 人
職員数	7 人	常勤 6 人 非常勤 1 人 (常勤換算 6.6 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建ての	~ 3 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	有 100,000 円	
保証金	無 円	償却の有無	無	
食費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
その他の費用	月額 7,000 円			
	内訳 光熱水費(3,000円)、日常生活費(4,000円)			

(4) 利用者の概要 (6月16日現在)

利用者数	8 名		男性	0 名	女性	8 名
	要介護 1			要介護 4		1
	要介護 2		1	要介護 5		1
	要介護 3		5	要支援 2		
年齢	平均 87 歳	最低	78 歳	最高	99 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 佐藤医院 岸本医院 徳山病院 歯科 栄歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

ホームが市街地に位置する中、地域の人とどう関わっていくかを運営推進会議でも取り上げ、自治会へも広報誌の回覧を依頼するなど、職員の意識改革も併せた取り組みがされています。利用者の重度化が進む中、利用者の思いをミーティング、ミニカンファレンスなどで頻りに話し合い、重要なことは伝達ノートに記録し職員全員で共通理解の下、日々のケアに励んでおられます。終末期の介護についても、家族や医師、医療スタッフと協議を重ね、出来る限りホームで暮らせるよう職員一丸となって努力されています。

(特徴的な取組等)

24時間対応の医療連携体制に支えられたホームは、利用者や家族の安心感に繋がっています。複合施設の特長を生かした多くのサービスがあり、併設のデイケアや高齢者支援アパートの利用者の人たちとの相互交流は、利用者の暮らしや生活の広がりになっています。「ゆっくり、いっしょに、楽しく」をモットーとしたサービスは、利用者のその人らしい暮らしを尊重し、穏やかで安心感のある日常生活を支えています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

地域に対する運営理念の啓発については、広報誌を回覧することに自治会より承諾いただき、内容を検討し、準備段階です。運営推進会議のメンバーの拡大は地域的に困難ですが、一人でも多くの理解者を増やしていく努力をされています。ヒヤリはっと報告書も整理され、事故防止のための記録も書き込みし共有することで再発防止に向けての取り組みをされています。

(今回の自己評価の取組状況)

計画作成担当者が中心となり職員全員で話し合い、管理者がそれを整理してまとめたものを再度職員に提示し、課題について検討されています。自己評価を行うことによって、日々の業務の見直しができ、職員同士の共通認識が得られました。

(運営推進会議の取組状況)

運営推進会議は、市の保健師2名、民生児童委員、美容師、介護相談員、家族、利用者、職員のメンバーで定期的に開催され、利用者やサービスの報告の他、外部評価結果で明らかになった課題について説明し、参加者からの意見、助言等をいただき、サービスの向上に努めています。

(家族との連携状況)

利用者の日頃の様子を撮った写真や行事予定を載せた「明香苑だより」を2ヶ月ごとに発行し、担当職員からの一言を添えて家族に送付しています。家族との関係作りのために、利用料は必ず窓口で支払ってもらい、月1回は利用者の日常の様子を伝え、家族からの意見や要望を聞くなど、交流の機会としておられます。

(地域との連携状況)

市街地で交通量も多く住宅が少ない中で、買物や散歩で地域の人と交流を深めておられます。近く的美容院や花屋さん顔なじみになったり、地域ボランティアの人から大正琴や歌の指導を受けたり、地域の祭り、お大師様の接待への参加などを積極的にされています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域社会とのつながりを大切にし、利用者が家庭的な環境の下で、「ゆっくり、いっしょに、たのしく」暮らせることを定めた事業所独自の理念をつくりあげている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者と職員は理念の共有を図るために意識改革を図り、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。地域への浸透には、先ず隣近所へのあいさつから始まることを、職員に改めて呼びかけている。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	住宅が少ない地域の中で、近くの美容院や花屋さんと同様になつたり、地域ボランティアの人から大正琴や歌の指導を受けたり、地域の祭り、お大師様の接待への参加などで地域の人々との交流を深めている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は職員全員で取り組み、それぞれの項目についての改善課題を取り上げ、日々のケアの振り返りや見直しなどサービス改善に向けて取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議は、市の保健師2名、民生児童委員、美容師、介護相談員、利用者、家族、職員で定期的開催し、利用者やサービスの状況報告のほか、外部評価結果で明らかになった課題について説明し、参加者からの意見、助言等を活かし、サービスの向上に努めている。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市役所はホームからも近く、担当課の職員とは顔なじみで、普段から直接話す機会が多く、具体的なサービスについての報告や相談を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	2ヶ月に1回発行する「明香苑だより」に利用者の暮らしぶりのスナップ写真や行事予定などを担当職員からの一言を添えて報告をしている。また、毎月、全員に金銭出納表を見てもらい、確認印をもらっている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の来訪時には意見や要望をじっくり聞くようにしており、入り口に苦情ボックスを設置するなど、気軽に意見が出せるように工夫している。苦情相談の窓口、担当者、外部機関を明示し、苦情処理の手続きも明確化している。	・第三者委員の検討
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤6名、非常勤1名の職員体制で、利用者に対して柔軟な対応ができるよう勤務の調整をしている。夜勤帯は、併設施設の応援体制が組まれている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員と利用者が馴染みの関係が続けられるよう職員の異動は最小限に留めるようにしている。退職の場合は利用者へのダメージを防ぐため、1ヶ月ほど重複勤務出来るよう配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人材育成のため、職員に対して法人による計画的な研修機会が設けられており、毎週水曜日には、接遇や事故防止、緊急対応などの勉強会が実施され、参加できない職員には復命している。外部研修の機会は少ない。	・外部研修への参加拡大
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホームの周南ブロック研修会やケアマネジャーの集まりに参加し、職員同士の交流や情報交換を行っている。管理者やケアマネジャーの参加が多くなっているが、他の職員の参加は少ない。	・他のグループホームとの相互訪問や交流活動への機会拡大

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	併設の高齢者支援アパートからの入居が多く、職員とは顔なじみであるため、ホームへの移行がスムーズである。入居してからは、職員が頻りに声かけをしながら、一緒に行動するなど、トラブルもなく過ごされている。	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	利用者の重度化に伴い、今まで一緒に行ってきた調理作業などができなくなってきているが、職員はできるだけ利用者に寄り添い、利用者の思いを大事にしながら共に過ごし、支えあう関係を作っている。「若い人と一緒に暮らせてありがたい」と、利用者に言われ、職員が元気づけられることもある。	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	利用者の思いや希望は、毎日の暮らしの中から見極め、把握するよう努めている。伝達ノートでの生活記録や毎日のミーティングでの担当者の報告から、利用者の意向を探り、一人ひとりに合った支援が出来るよう心がけている。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	管理者、担当職員、計画作成担当者を中心に、カンファレンスを開催し、家族や利用者、主治医からの意見を参考にしながら介護計画を作成している。	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	6ヶ月ごとに介護計画を見直しているほか、サービス状況等のモニタリングを毎月1回のカンファレンスや随時のミニカンファレンスなどで行っている。変化が生じたり見直しが必要な場合は随時検討し、現状に即した介護計画を作成している。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	日常的な健康管理や医療相談、受診や美容院への付き添い、入院中の利用者への訪問など、出来るだけ利用者や家族の要望に沿えるよう柔軟な支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族の希望を大切に、併設医療機関による受診のほか、それぞれの病歴に関わる他の医療機関においても継続受診を支援している。その場合は情報提供も適切に行い、利用者が安心できる体制を整えている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の医療機関との協力関係がとられており、利用者や家族の意向を踏まえた上で、かかりつけ医と相談し、その結果に応じた方針を全員で共有するようにしている。訪問時直前にも、終末期の利用者の看取りケアが行われていた様子である。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者に対する尊敬の念や言葉づかいに気をつけることはミーティングや伝達ノートで度々確認しあっている。利用者の記録等は、鍵のかかる保管庫に入れ、個人情報が流出しないよう注意を払っている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間や食事タイムは、できる限り本人のリズムや主体性を尊重した対応を心がけている。1日2回の「寄り添いタイム」では、その日の担当者が利用者から希望を募り、ゲームや散歩、ドライブなどを楽しんでいる。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理ができなくなった代わりに、屋上に植えてある野菜を一緒に取りに行ったり、盛り付けの手伝いをしたり、それぞれが出来ることを行い、利用者と職員が楽しい食事の時間を過ごしている。たまに、ゼリーなどの簡単なデザートづくりも行っている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴はいつでも自由に入れるように準備してあるが、殆どは午後から入るような習慣になっている。入浴時間は一人ひとりがゆっくりと入浴できるように支援がされている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	年々重度化していく中で、利用者一人ひとりの出来ることを見つけ、役割分担をするなど日々の活力につながる支援をしている。調理での野菜の皮むき、ゴマすり、洗濯物たたみ、菜園での花摘み、2階フロアを借りてのカラオケタイム、デイサービスへの参加など、一人ひとりに沿った場面作りを設定している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の体調を見ながら、本人の気分や希望に応じて外出している。公園への散歩や小遣い銭を持ってジュースを買いに行く他、通院介助を兼ねてのドライブや外食などの支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、職員全員で理解を深めており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特にスピーチロックについては、職員同士が気がついたときに指摘しあうよう呼びかけている。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけておらず、鍵をかけないことの意味を職員は理解している。帰宅願望のある利用者には、医師の指導の下、職員全員で話し合い、安全な見守り体制を心がけている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルがあり、転倒、転落などの防止や対応について学習を行っている。インシデント、アクシデントについては、伝達ノートに記入し、引継ぎを確実にを行うなど職員全員での事故防止対策に努めている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルがあり、緊急の場合は、併設の病院の協力を得た緊急連絡体制が整備されている。消防署の協力を得て救急救命の研修も行っている。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災マニュアルが作成されており、年に1度は消防署の協力で避難訓練や消火器の使い方などの研修を行っている。利用者の重度化に合わせて、担送、車イス移送なども想定し緊急時の対応に備えている。	・地域住民への協力依頼

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者の健康状態、治療状況、服薬内容が書かれたものは個別にファイル化され、職員はきちんと把握している。服薬については、職員が名前を確認し、手渡しをして、飲み終えるまで確認をしている。必要な情報は必ず医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、利用者一人ひとりに応じた口腔ケアを実施している。通院の時に、入れ歯の状態チェックや口腔内粘膜の状態を見てもらうなど、ケアの指導を受けている。歯ブラシや義歯は消毒を行い、每晚保管している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の摂取量、水分量は把握され、カロリーや栄養バランスについては定期的に管理栄養士にチェックしてもらい、助言を受けた上で、利用者一人ひとりの状態に応じた食事の支援を行っている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症、食中毒の予防マニュアルがあり、法人で開催される安全管理委員会に参加し対策や事例の検討をしている。県の研修会への参加や、ノロウイルスなど最新の情報はインターネットで情報を共有している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	職員や利用者と一緒に作った数々の手作りの作品が飾られ、明るく家庭的な雰囲気である。併設の病院への通路のフリースペースには椅子やテーブルが置かれ、日向ぼっこや利用者同士の語らいの場となっている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テレビ、タンス、ベッドは備え付けとなっているが、入居前に、持ち込むものについては家族と話し合っており、できるだけ利用者の使い慣れたもの好みのものが置かれ、安心感を持って過ごせるよう心がけている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム明香苑
所在地	山口県周南市代々木通り2 - 27
電話番号	0 8 3 4 - 2 1 - 8 1 8 8
開設年月日	平成 13 年 6 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (5 月 31 日現在)

ユニットの名称			
ユニットの定員	8 名		
ユニットの 利用者数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
	要介護 1		要介護 4 1
	要介護 2	1	要介護 5 1
	要介護 3	5	要支援 2
年齢構成	平均 87 歳	最低 78 歳	最高 99 歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	ミーティングで評価の意義について話し合い、ケアマネ中心となり評価し、管理者が作成した。
評価確定日	平成 20 年 5 月 31 日

【サービスの特徴】

JRの徳山駅に近く、市街地の4階建ての3階部分で、屋上には菜園や樹木も植えられ、展望も良く、入居者にとっての憩いの場所となっています。洗濯干し場もあり、入居者は日常的に屋上へ行き来し、気分転換をしています。また医療法人の併設施設として24時間の医療対応と入居者の健康管理をしています。デイケアやケアハウスの人との交流があり、入居者の暮らしや生活の広がり、楽しみ事にもなっています。住み慣れた地域で“ゆっくり・一緒に・楽しく”と共に日常生活を通じて「お年寄りから様々な事を教え授かる」ことをモットーとして健康で明るく安心した生活が送れるよう援助させて頂いている。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえ、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		・日常的な取り組みの検討
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員で行い外部評価の結果はミーティングで報告し取り組んでいる。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	前回からの取り組み状況を報告すると共に、特に地域との交流や見守り体制の充実に向けて意見交換している。	・議事録の整備
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	担当課と利用者の情報交換や、市の介護相談員とサービスの質の向上について話し合っている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するように支援している。	必要な方には活用と支援をしている。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待が見過ごされる事のない様に常に職員間で話し合い防止に努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約内容の納得を頂けるように説明している。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	介護相談員の訪問を受け入れ、利用者の相談にのって頂く等、利用者が外部に声を表せる機会を設けている。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族向けホーム便りを発行し、一言だよりも記載して送付または手渡ししている。請求や金銭出納に関する書類の写しも手渡ししている。家族の来訪時には、暮らしぶりの話をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		・全家族への意見や要望、反映状況の報告 ・第三者委員の選任
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21 (10)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		・圏域のGH連絡会への参加検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		・職員間の連携
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族、関係者で介護計画を話し合い、様々な工夫を反映させている。本人の日常生活の中から把握し家族と関係者として話し合いそれぞれの意見を反映した介護計画を作成している。	・ケアとカンファレンスの充実
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態に変化が生じた場合は随時に見直し、実状に即した介護計画を作成している。	・ケアとカンファレンスの充実
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録等の情報共有を職員間で徹底している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	24時間の医療連携による健康管理や医療の活用をしている。受診や美容院への付き添い、入院中の利用者への支援もしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安全でより豊かな暮らしを楽しめるように地域の人やボランティアの力を借りている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	事業所の機能を地域に開放できていない。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	介護タクシーを利用して受診や外出を支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>日々の場面やミーティングの機会を通して、相互に注意、指摘し合う等意識の向上とスキルアップをしている。</p>	<p>・日々のケアと尊厳の保持について</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の食事嗜好や衣服への関心、入浴順への希望など日常の中で自己決定の場面をつくっている。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>“できる力”は限られたものとなったが、普段洗濯・調理準備へと支援を行っている。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入浴や食事、就寝や起床の時間帯は定めているが、その時々希望や健康状態に添って暮らせるよう支援している。</p>	<p>・個別ケアの徹底</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者の望む美容院の利用と、家族と連携を取りおしゃれへの支援も行っている。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>好みを聴き、準備や片付けなど出来る事を共にしている。職員も一緒に食卓で食事をしている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>お酒やタバコを好む人はいないが、他の嗜好品についても各利用者毎に皆さんに楽しんで頂く様にしている。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>日中オムツ使用者はおらず一人ひとりの力を生かして声掛けや誘導を行っている。失敗してしまった時は周囲に気付かれないように配慮しながら、さりげなく支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日13:30～16:00に楽しんで頂いている。一人ひとりに合わせた言葉がけや対応の工夫等により入浴支援を試みている。入浴剤を使って、香り・色の工夫で足浴の支援をしている。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	利用者個々の生活習慣に応じた休息を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の準備でゴマすり・皮むき・きのこ裂き、洗濯物干し・たたみ、など個々の得意分野を活かし楽しみや張り合いにつながる場面づくりをしている。リビングに歌詞カードを貼り皆で歌を楽しむ様にも支援している。		・役割 = 強制になる側面に留意する
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と相談しながら、利用者のお金がある安心感や満足感に配慮し所持してもらっている。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人にとって目的と意識のある外出になるよう、生活場面から外出の意味づけをして支援している。また小遣い銭を持ってジュース等の買い物も気軽に出来るよう支援している。外食や生花店にも出かけている。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者の願いを家族と相談し、協力を得ながら取り組み支援している。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	たまにしか会えない遠方に住む子供の声を聞くため、面会時の家人携帯より電話を1回/Mかけている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や馴染みの来訪時は遠慮なく本人とゆっくり過ごせる時間を作ったり、スペースの工夫や湯茶等の用意をしている。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	利用者や家族が希望すれば、遠慮なくゆっくり過ごしてもらった配慮は出来る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		拘束につながる具体的な行為を理解しており、カンファレンスでケアを工夫している。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		職員の見守りの方法を徹底し、監視にならないよう支援している。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		全員の所在や様子をつかみ、常に声掛けや、プライバシーに配慮しながら見守りをしている。
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		利用者の状況をきめ細かく把握しての対応をしている。
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		一人ひとりの特性をアセスメントし、個別ケアの充実を図っている。歩行不安定な方への転倒防止では、夜間のみでのトイレ使用とか、トイレ移動時の付き添い等その方に必要な方法で取り組んでいる。
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		医師や看護師、消防署の協力を得て、研修や訓練をしている。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		事故報告書を職員全員で共有し、発生原因の明確化により再発防止につなげている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		・地域へのはたらきかけ
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	入り口には手作りの案内板を掲示し、季節の生け花や置物で、利用者等が事業所に入りやすい配慮をしている。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	フロアの飾り付けや家具の配置は、過ごしやすさや使いやすさを利用者にも実感してもらうことで、気ままに振舞えるようにしている。音量や照度は、利用者の意向を確認しながら調整している。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下に椅子とテーブルを置き仲の良い利用者同士でくつろげるスペースをつくり、利用者同士の関係性などに配慮した居場所作りや環境作りを心がけている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	備え付けのTV・タンス・ベッド・ブラインドであるが本人の意向を聞き使い心地の良いように配置している。またこれまでの生活で馴染みのある写真など持ち込んでもらい落ち着ける場所作りをしている。	・本人の意向や趣味を採り入れた備品の更新
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気の入れ換えや温度調節について、職員は常に意識し、職員の感覚だけでなく利用者一人ひとりの状況に配慮して行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	本人の活動性を維持する為に車椅子やシルバーカーを個人の状態に合わせて採り入れるなど、身体機能の変化等に配慮し利用者の「現在の状態」に応じた対応をしている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人にとって状態が変わり、新たに混乱や失敗が生じた場合は、その都度職員一同で話し合い、本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるように試みている。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	身体機能の低下に伴い、日常的な外出が困難になった利用者にもちょっとした屋上のスペースを活用して外気浴を楽しむ事や、畑のスペースを確保し、野菜や花を利用者が日常的に楽しみながら活動する事が出来るようにしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない